

## 地球と地域の未来をつくる

# SDGs

Sustainable (持続可能な)  
Development (開発)  
Goals (目標)

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



今日、私たちの暮らす地域社会は、さまざまな環境問題および社会的課題に直面しており、現在・将来とも持続可能な社会を構築できるかどうか危ぶまれています。ここでいう「持続可能」とは「将来にわたって同じ状況・環境を維持し今と同じ営みを永続的に続けていくことが可能であるさま」のことです。

「持続可能な開発」の概念は、1987年に国連環境と開発に関する世界委員会で打ち出され、その後の地球環境保全のための重要な道しるべとなりました。

同委員会の報告書では、開発の条件として「将来世代のニーズを損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすこと」が挙げられています。単に永続的な経済の成長や発展という意味ではありません。

1992年の国連環境開発会議では、持続可能な開発を実現するための行動計画「アジェンダ21」が策定され、この中に「持続可能な開発のための教育（ESD）」の重要性とその取り組みの指針が盛り込まれました。ESDは、持続可能な社会を構築するための担い手、いっ

てみれば「未来をつくるひとづくり」のための教育、学びです。

2015年9月には、ESDの後継プログラムとして「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が国連サミットで採択され、その中に盛り込まれた「持続可能な社会を築くための目標（SDGs）」は、17の目標と169のターゲット、さらに244の指標から構成され、2016年から正式に取り組みが始まりました。

SDGsは、すべての国々に普遍的に適用され、各国は2030年までに「誰も置き去りにしない」というスローガンのもと、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動（地球温暖化）に対処するための取り組みなどを進めることとなります。具体的な数値目標はありませんが、私たちは、地球人として、地球上のさまざまな人々、今をともに生きる同世代や将来世代、そしてあらゆる生き物とのつながりを認識し、行動を変革し、持続可能な社会の構築につながる課題に日常的に取り組むことが求められています。

執筆：環境省 環境カウンセラー 勝井明憲

問い合わせ 環境課環境グループ ☎298-1111 (内線447~449)